

2017年(平成29年)

ハタハタ情報 No.2

平成29年11月1日発行

中央水産試験場 資源管理部

Tel : 0135-23-8707 Fax:0135-23-8709

後日、インターネットからもご覧いただけます↓

マリネット北海道 : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/index.html>

水試調査船北洋丸によるトロール調査(留萌沖)の結果を報告します。

【調査概要】2017年10月14日～10月21日に、留萌沖の水深150～400mの海域6調査点でトロールを曳網し、ハタハタの漁獲試験を行いました。計9尾(0歳魚を除く)のハタハタを採集し、体長測定や年齢査定などを実施しました。

- 1マイル曳網あたりの平均採集尾数は0.8尾で、先月の調査と同様に採集密度は最低水準。
- 先月の調査と同様に1歳魚主体のため、今漁期の魚体は2歳魚が主体であった昨年より小さくなる見込み。
- 成熟状態は雌の採集尾数が少なく明言できないものの、遅めの可能性が高く、沿岸前浜への来遊は11月下旬目安か。

1. ハタハタの分布状況(図1)

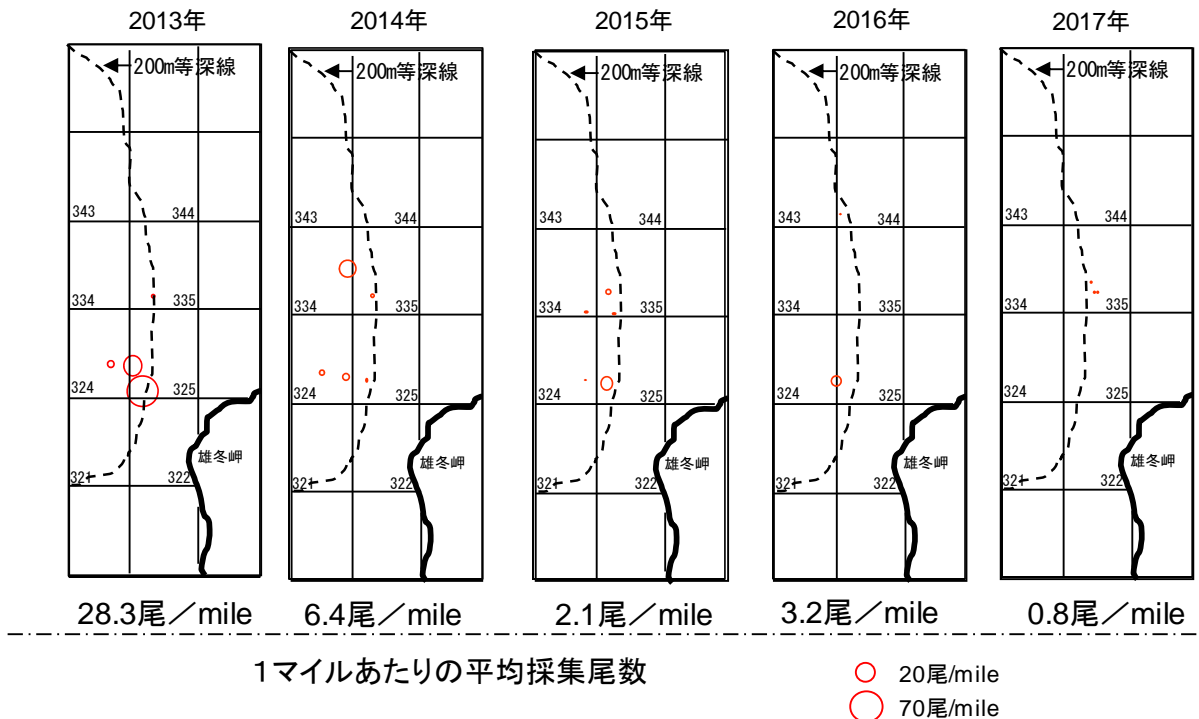


図1 10月トロール調査による採集尾数(0歳魚を除く)

今回の調査では6回のトロール曳網を行いました。南部海域（海区324, 325）では曳網できませんでした。1歳以上の採集尾数は合計で9尾、1マイルあたりの平均採集尾数は0.8尾と、先月のトロール調査同様に非常に少ない採集量であったことから、今漁期の来遊資源量は少なくなる可能性があります。

2. ハタハタの体長と年齢(図2)

今回の調査で採集されたハタハタの年齢構成（0歳魚を除く）は、1歳魚（2016年級）が100%であり、1歳魚が78%を占めた先月の調査と同様に1歳魚主体でした。従って、2歳魚が主体となった昨年漁期に比べると、今漁期の魚体は小型組成になると考えられます。

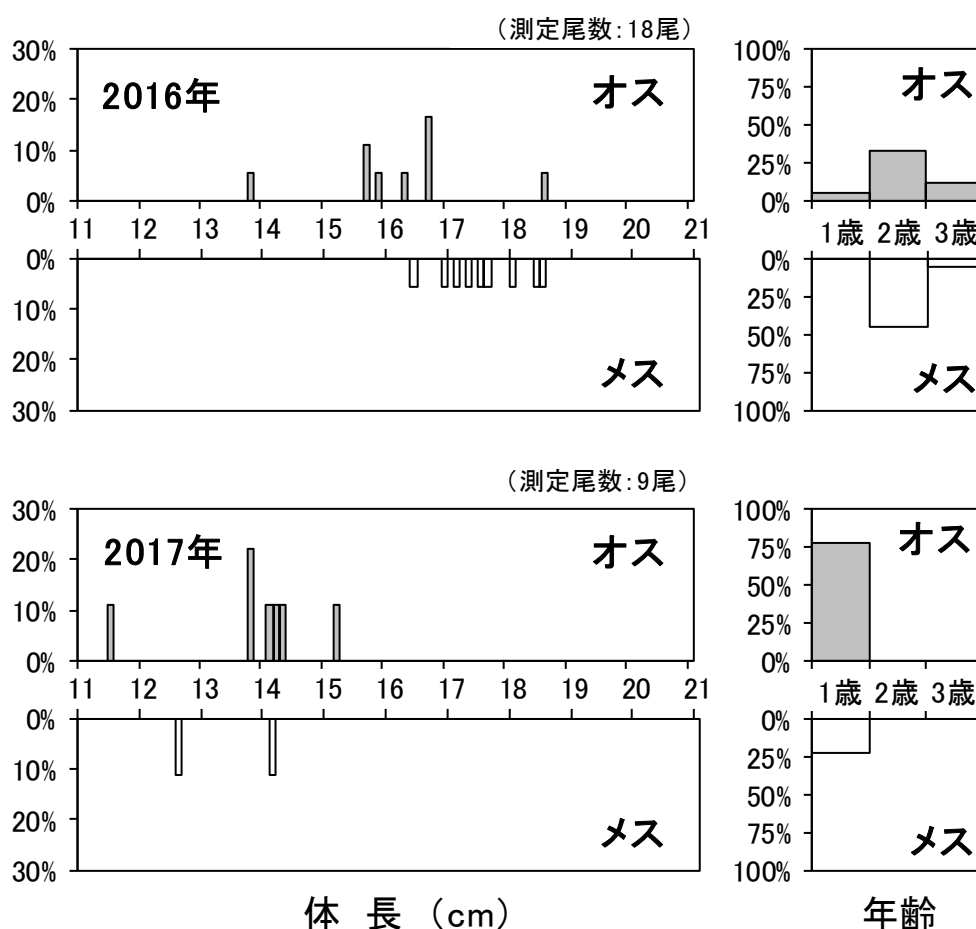


図2 今回の調査で採集されたハタハタの体長組成と年齢組成（0歳魚を除く）
上段図：昨年（2016年）調査 下段図：今回の調査

3. 成熟状態(図3)

ハタハタは成熟（生殖巣の発達）が進むにつれ、南下して沿岸にて産卵することが知られています。雌の体重に占める卵巣（ブリコ）重量の割合（GSI）は産卵が近づくにつれて高くなり、沿岸に来遊する頃には40%前後となります。

今回の調査では、成熟した雌が1尾しか採集できなかったことから、明言することはできませんが、今回採集された雌（1歳魚）のGSIは13.7%であり、過去に1歳魚が漁獲の主体となった2009年や2015年より低い値でした。2009年と2015年の前浜での初漁日は、それぞれ11月18日と17日であったことをふまえると、今期の石狩湾前浜への来遊は11月下旬が目安となり、その時期の水温や海況に応じて来遊時期が決まるのではないかと考えられます。

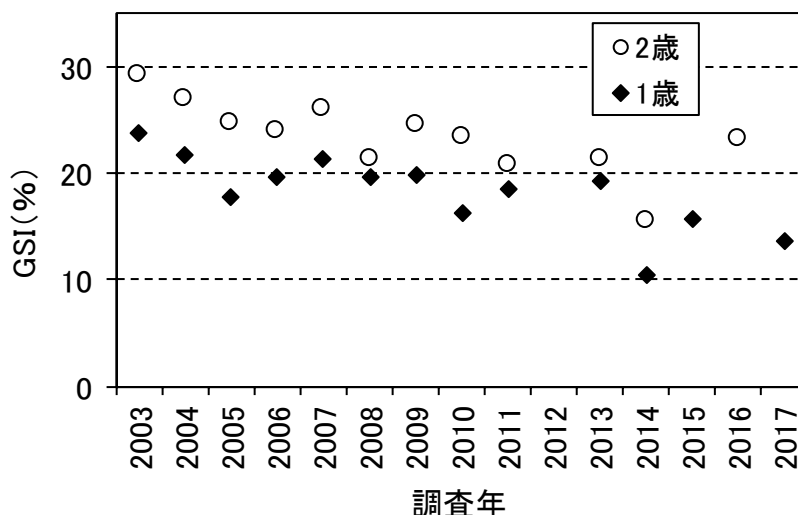


図3 毎年10月下旬のハタハタ雌の卵巣重量指数（GSI）
 (GSI = 卵巣重量 ÷ 内臓除去体重 × 100)

4. 水温(図4)

今回の調査の中で行ったCTDによる留萌沖の表層から底層までの水温観測結果を、同時期の過去5年平均値（調査ができなかった2012年を除く）と併せて示しました。

2017年の水温躍層（水温が大きく変化する水深帯）は55m付近にあり、それより浅い範囲では平年並み～低め、深い範囲では150m付近まで平年より低めとなっていました。

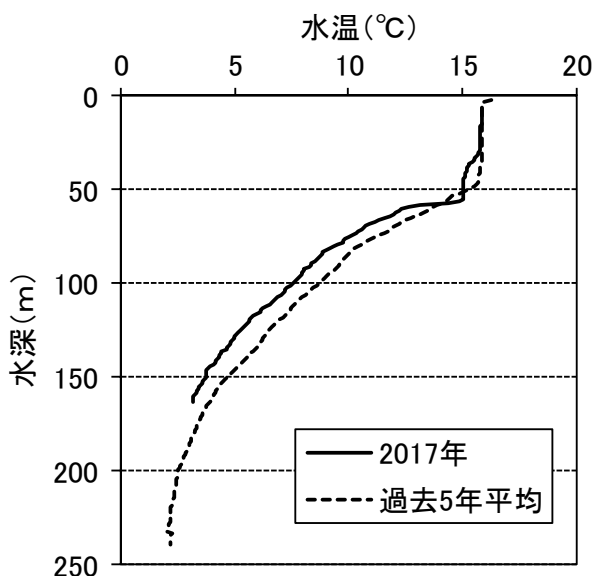


図4 留萌沖の水温分布

5. 今後の調査など

今年度の留萌沖での調査船によるトロール調査は終了です。関係漁業者の皆様、調査へのご配慮ありがとうございました。今後は、各漁業による漁獲物の標本採集調査などを実施いたしますので、重ねてご協力をお願いいたします。